学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

令和３年度
グリーンプラン推進校
活動報告書

認定NPO法人 共育・協働の環境づくり
えどがわエコセンター

１．グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでＰＲしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

●環境学習活動費として、各校「５万円」の助成が受けられます。
●えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
●えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
●他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
●環境学習に関する様々な情報が得られます。

条　　件

●対象は江戸川区内の幼稚園・小学校・中学校です。
●年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
●中間報告・最終報告の提出や報告会への参加をお願いします。
●えどがわエコセンターへの会員登録をお願いします。

２．えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政やＮＰＯ/ＮＧＯと連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

●地球温暖化防止・・・低炭素社会づくりに関するイベント・講座など
●資　源　循　環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
●自然環境保全　・・・河川・海岸の保全、東なぎさクリーン作戦など
●仲　間　づ　く　り・・・すくすくスクール放課後環境教育、小中学校出前授業
エコアクション講座、「エコカンパニーえどがわ」の推進など）

３．令和３年度グリーンプラン推進校

小学校（１２校）

小松川小学校	西一之江学校	葛西小学校	第二葛西小学校
宇喜田小学校	清新ふたば小学校	新堀小学校	篠崎小学校
篠崎第四小学校	西小岩小学校	南小岩第二小学校	北小岩小学校

中学校（４校）

松江第二中学校	松江第五中学校	小岩第三中学校	小岩第五中学校

目　　次

活　動　報　告

小松川小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ３
西一之江小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ５
葛西小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ７
第二葛西小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ９
宇喜田小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. １１
清新ふたば小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. １３
新堀小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. １５
篠崎小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. １７
篠崎第四小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. １９
西小岩小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ２１
南小岩第二小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ２３
北小岩小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ２５
松江第二中学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ２７
松江第五中学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ２９
小岩第三中学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ３１
小岩第五中学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. ３３

えどがわエコセンターでは、
『ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）』を
推進しています。

学校名	小松川小学校	対象学年と人数	４年生：５９名
活動名	日本らしい自然の再生		
指導者	学内指導者：鈴木郁、向坪悠 学外支援者：東京大学大学院農学生命科学研究科　根本正之先生 （役割分担）総合的な学習の時間のまとめの授業		

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15 ○	16	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

生物多様性の保全が言われる昨今、小学校付近のわずかな緑は、造園樹木や園芸草花など人工の緑ばかりです。現代の子供たちの日常生活の中で、生物多様性に富んだ日本らしい自然を体験する場を提供したいと考えました。小学生児童が主体となって、日本の在来植物を再生する活動を行います。

成果

カワラナデシコやキキョウは、秋の七草と言われますが、絶滅の危険が増大している植物です。今の５年生がお世話をしたカワラナデシコとキキョウを４年生が引継ぎ、夏休みに一人一株ずつ持ち帰り、お世話をしています。昨年度に移植したカワラナデシコやキキョウ、オミナエシが正門横のビオトープに花を咲かせ、その後児童が種子を採取しました。児童は調べたことを新聞にまとめ、お互いに見合いました。最後に、根本正之先生がまとめの授業をしてくださいました。こまっこが日本の在来植物を再生する活動を行っています。ビオトープコンクール２０２１では「日本生態系協会賞」を受賞しました。

感想･課題等

小学校児童と地域による、強害外来植物除去による自然再生は、多くの地域で試みられてきました。しかし、毎年草取りを続けても、強害外来植物が容易になくならないのが現状です。また強害外来植物の除去だけでは、在来植物が自然に生えてくることはなかなかありません。そこでこの活動では、地域の緑に日本らしさを感じなくなった都会で、小学校児童が自らの手で在来植物の芽生えから観察と栽培を行い、さらにその苗を「汐入方式」で移植し、昔は東京でも誰もが身近に見たり遊びの対象にしたりした、生物多様性に富む「日本らしい自然」の再生を目指しました。目標とする日本らしい自然とは、東京大学大学院生命科学研究科の根本正之博士が提唱する「人間による自然の『受け入れ』『管理』『改変』の三つがほどよく調和していた空間」です。実際に行った「汐入方式」は、強害外来植物の生えている草地でそれを除去した裸地（ギャップ）に、あらかじめ育てておいた地域苗を植え込む仕方です。長期計画（２～３年）で行えば、児童自ら体験しつつ「日本らしい自然」を取り戻すことができます。実際にこれまでの活動で、東京都の学校の校庭や河川堤防でも、多くの在来植物が見られるようになってきました。必ず関東河川流域から採取した在来植物を移植することで遺伝子攪乱を起こさないようにすることが課題です。移植した在来植物は、年を重ねるにつれ個数を増やし、大きく立派に育っていきます。

活動写真

カワラナデシコ（秋の七草）

オミナエシ（秋の七草）

キキョウ（秋の七草）

ノアザミ

ヤブカンゾウ

カワラナデシコのさやから種子をとる

ビオトープコンクール２０２１で、小松川小学校は「日本生態系協会賞」を受賞しました。

学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	全学年：６９１名
活動名	身近な自然に触れよう　大切にしよう 「ごみを減らそう」の取り組み		
指導者	学内指導者：校長：大辻隆夫　他　全教職員 学外支援者：江戸川区役所緑化推進係、公園ボランティア（４年公園整備） 学校応援団、PTA イクメンジャー（カブトムシの育成） 小松菜農家さん		

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11 ○	12	13	14	15 ○	16	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

○身近な自然に目を向け、自然を大切にしていこうとする気持ちを養う
　カブトムシの育成・近隣の公園の整備・各学年の花壇活動と栽培
　（小松菜・へちま・ゴーヤ・米・芋・プランターの植物栽培）
○「燃やすごみ」「燃やしてはいけないごみ」を区別し、再利用できるものを再活用できるように生活する

成果

○３年生と飼育委員の児童を中心に、カブトムシの世話を行った。３年生は一人一匹のカブトムシを育て上げた。活動の中で、カブトムシ小屋から出る糞や腐葉土を肥料として学年の花壇に入れた。糞や腐葉土は、野菜や花を育てるための大切な肥料として活用できること、自然の様々な事象は循環していることを、活動を通して学ぶことができた。
○３年生では、小松菜農家を訪ね、小松菜の育て方について学習を行った。３年生の花壇で、小松菜の種をまき、育てている。近隣に広がる農家に目を向け、活動を通して自然の大切さに気付いた。
○４年生は近隣の公園に出かけ、リンゴの木の受粉を行うことや公園の花壇の花の苗の植え替えを行った。地域のボランティアの方々と一緒に活動し、地域の自然へも目を向けた活動を行った。
○各学年とも、学年花壇で植物を育て、自然に親しむことができた。
○エコ委員会の児童と用務主事を中心に、ごみの分別の徹底を行った。段ボールの細かいものはテープなどをきれいに取り外して、再生可能な状態にすることを全校で協力して行うことができた。

感想･課題等

○学校内の自然から地域の自然環境へも目が向くようになり、大切にしていこうという気持ちが育った。
○飼育委員会で、カメの飼育・ウサギの飼育から、プランターでの植物栽培へ活動を移行させてきている。移行期間が冬季にかかってきたため、日程の調整面で課題が残った。
○児童が、日々の小さな取り組みを継続することで、エコにつながることに気付いた。紙類を多く使った活動の後に、後始末の仕方を丁寧に行った結果、日常活動がきちんとできるようになり継続できている。

活動写真

カブトムシ小屋の整備：越冬したカブトムシの幼虫をカブトムシ小屋の土の中から掘り出し、飼育のケースに移します。その時、カブトムシを育てていた糞や腐葉土が混ざった土をふるいにかけて、糞と土を分けます。肥料になるところは学級花壇に入れ込んで、植物を育てます。

松江公園の苗の植え替え：４年生が近隣の松江公園で江戸川区役所の緑化推進担当の方や地域の方々と、春にはリンゴの木の受粉を、秋には公園花壇の花の苗の植え替えを行った。児童は「自分たちで世話をした木」、「自分たちで植えた花」として自然を大切にする気持ちを育てられた。

清掃の時間のエコ委員会の活動：清掃時間には、５・６年生のエコ委員会の児童がごみを収集する場所に立ち、ごみが仕分けしてあるか確認しながらごみ捨てをする。再生できる紙類は別にするなどの活動をすることができた。低学年の児童がごみの捨て方に迷うと、エコ委員がサッと手を貸して手伝う姿が見られた。児童同士で声を掛け合うことで、さらにごみの分別への意識が高まった。

学校名	葛西小学校	対象学年と人数	４年生：100 名
活動名	グリーンカーテン		
指導者	学内指導者：長島めぐみ、菊田歩希、湯澤洋子		

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13 ○	14	15	16	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

グリーンカーテンを作る活動を通して、地球温暖化が進む地球に目を向け、身近なことで自分にできることは何かを考えることができる

成果

○総合の時間を使って、グリーンカーテンについて調べたり、出前授業で外部講師の方から話を聞いたりして地球温暖化について興味関心をもつことができた。

○学校で、土の準備から苗植えを行い、毎日お世話を続けて、ゴーヤをグリーンカーテンに仕立てていく過程で、植物の成長の姿やグリーンカーテンが心理的に与える清涼感、そして、植物の生命力などを実感しながら学ぶことができた。

感想･課題等

○グリーンプランの予算を使い、４セットのネットや植木鉢、ブロック、重石などを購入することができた。来年以降も活用でき、グリーンカーテンに取り組みやすい環境を整えることができた。

○子どもたちは楽しんで活動に取り組んだ。４年生中心で活動し、苗植え、水やり、摘心、花の観察、種の採取など、自分たちで育てたゴーヤの成長を、一から時間をかけて観察できたのは良かった。また、３年生や飼育栽培委員会の児童も水やりに協力してくれたり、５年生が理科の学習で活用したり、目的以外の場面でも生かされていてよかった。

○夏休み前には、温暖化対策の一つとして「打ち水」も体験し、簡単にできることから始めることの大切さを学んだ。

○植える時期が遅く、長雨のあと充分に成長しきれないまま猛暑の時期に入ってしまい、成長が止まってしまったため、葉の繁りが十分ではないカーテンになってしまったのは残念だった。植える時期と水やりの環境整備は今後の課題である。

活動写真

みんなで協力して、土作りをしました。準備完了！

苗を植えて支柱を立て、たっぷりの水をあげました。

ぐんぐん成長をはじめました。

地球温暖化についてのお話しをいただきました。

実がなり始めました。蜂やちょうちょが飛んでいるのも観察できました。

爆裂した黄色い美と、真っ赤な種に興味津々でした。

グリーンカーテン作りをきっかけに、エネルギーや環境問題について詳しく知り、自分にできることから取り組んでいきたいという気持ちを持つことができました。
SDGｓの目標の中で興味のある事柄について調べ、新聞にまとめました。

学校名	第二葛西小学校	対象学年と人数	２年生：１７０名
活動名	学校自然いっぱい運動		
指導者	学内指導者：原豊、佐藤有希、銘苅達朗、麻生雄介		

1	2	3	4 ○	5	6	7	8	9
10	11	12	13 ○	14	15 ○	16	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

○校内に多様な苗木を植えることで、自然環境を整える
○校内の環境を良くしようという意識を高める
○２年生の生活科を中心に、児童の自然愛護の意識を高める
○校内の環境を自分たちで計画的に整えることで、母校への愛着を高める

成果

○校内の環境が整備されたことで、児童が過ごしやすく気持ちの良い環境をつくることができた。
○苗木だけではなく、他の事でも校内の環境を良くしていきたいという意識が芽生えた。
○２年生の児童がお世話係や水やり当番など、自分たちで考え、主体的に活動することができた。
○苗木を植えたり、たくさんの種類の苗木を育てたりすることで、植物の種類や世話の仕方についての知識が増えた。
○他の学年の児童も興味をもち、自然に対する意識や学校の環境を整えようとする意識が高まった。

感想･課題等

感想
○初めはたいへんだと思ったけれど、友達と協力してできたのでよかった。
○友達とタブレットで写真を撮影したり、水やりしたりするのが楽しかった。
○緑が増えたことで、学校が明るくなった気がした。
課題
○児童主体で行ったが、一部苗木が揃わず児童の思いをかなえてあげられない部分があった。
○当初予定していた活動は、コロナの影響もあり、一部児童主体ではなく教員主体になってしまったものもあった。また、完成の時期が遅れてしまった。
○苗木を運んでくださった業者の方がとても植物の管理に詳しかったので、ゲストティーチャー等教えていただく機会を設定すれば良かった。
○タブレットを活用した観察や撮影が有効だったので、早いうちから記録方法として活用すれば良かった。
○次年度は、さらに児童主体の活動にしていきたい。

活動写真

古い鉢植えを２年生が全部片付けて、ベランダがきれいになりました。

苗木は２年生が話し合って決めました。レモンやみかんなどがあります。

学校名	宇喜田小学校	対象学年と人数	３年生：９５名
活動名	「宇喜田の自然を大切に」		
指導者	学内指導者：椎野登主幹教諭、竹内将希教諭、内山真奈美教諭		

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11 ○	12	13 ○	14	15	16	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

○宇喜田の森と緑のカーテンで宇喜田小を自然豊かにする
○心が落ち着き安心できる学校環境づくりをする
○栽培活動を通して、生命の素晴しさに気付き、花に親しみ大切にする心を育てる

成果

○緑のカーテンの設置により、環境の美化と学校全体の快適な環境づくりの一助となった。
○自主的に校舎内の花に水をやったり、学年全体で花を大切にしようとしたりする、生命尊重の意識が高まった。
○育てているアイビーを眺め、花が成長していることを確認し、毎日の成長を嬉しく思えるような心をもてる優しい児童が増えるような学校環境をつくることができた。

感想･課題等

（成果）
○毎日、花の様子を見に行くことで、生命尊重について関心が高まった。
○自分一人だけでなく、クラスの全員が毎日水やりや花の様子を確認することに取り組むことで植物を大切に育てる意識が高まった。
グリーンプランの取り組みをさらに学校全体に広げることで、その何倍にも効果は膨れ上がるので、今後学校全体に呼び掛けていきたい。
○中休みや昼休みなど、子どもたちが自主的に活動へ取り組む姿が見られた。
（課題）
○コロナ禍であり、外部指導員を招いての活動を行うことが難しいので、外部指導員を招いての活動ができなかった。
○参加児童は３年生・４年生で行った。全校的な活動として、位置付けることができなかった。今後は、年間学習指導計画とも連携させながら、計画的に環境学習に取り組ませ、活動内容を工夫していく。

活動写真

プランターにアイビーを植える活動

大きく育ち立派な緑のカーテンになってくれるように

登校時や下校時に水やりをする児童

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	４年生：６７名
活動名	大切にしよう みんなの町 ～ぼくたち私たちは“ふたば小 team KED”～		
指導者	学内指導者：小川智也、檜山勇輝 学外支援者：葛西海浜公園パートナーズ、えどがわエコセンター		

1	2	3	4	5	6 ○	7	8	9
10	11 ○	12	13 ○	14 ○	15 ○	16	17 ○	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

葛西海浜公園の自然環境に関わったり、環境を守るための取組を行ったりすることを通して、多様な生物が周辺の環境と関わって生きていることを理解し、持続可能な視点から自然環境の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

成果

葛西海浜公園パートナーズや気象予報士の方など、環境の専門家の方から話を聞くことにより、大きな環境問題が身近なところでも起きているという実感をもてるようにした。
また、外部の人たちの話を聞くことで、環境問題に対して色々な人が協力し合って解決に向かっていることが意識付けられた。

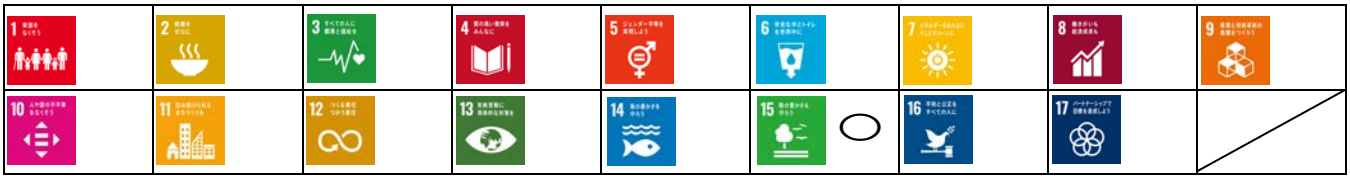
感想･課題等

○１学期に学習した、総合的な学習の時間「もったいないをなくそう～STOP 食品ロス～」や社会科「ごみの処理と再利用」を通して、SDGs に対する関心が深まり、問題を自分事として受け止め、解決していこうとする意識が芽生えてきた。一つの問題を解決するには、その問題に関連する様々な事象に目を向けることや、様々な視点から解決策を考えていくことが必要であると気付くことができた。
○児童にとって身近な公園の一つである「葛西海浜公園」の環境問題を取り上げ、これまでの学習と同様に、様々な事象が関連して起きている問題であることに気付かせることができた。
○葛西海浜公園の三枚洲を見学することや地域の方々の思いや願いに触れる機会を設けることで、より身近に問題を感じ、主体的に学ぶことができた。

活動写真

葛西海浜公園見学の様子

学校名	新堀小学校	対象学年と人数	１年生：54 名 ５年生：64 名 環境委員会：20 名
活動名	新堀小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：５年担任、１年担任、環境委員担当、主事 学外支援者：小林國雄（さつきのさし芽）、えどがわエコセンター（自然をみつけよう） 笠井雅世（４０周年花植え活動）		



目標

〇さつきのさし芽体験を通し、生命の重さ、大切さを学ぶ
〇新堀小学校４０周年事業の花植え活動を通して、自分たちの手で地域に愛される学校を築いたり、みんなを喜ばせたりすることの素晴らしさを感じることができる
〇身の回りにある自然と触れ、自然の素晴らしさを感じ、大切にする心を育てる

成果

〇さつきのさし芽教室（５年）
講師の先生から教えてもらい、盆栽の樹形を作る作業やさつきのさし芽を体験することができた。お話の中では、40 年前にさし芽をして育ったさつきを見せてもらうとともに、今まで行ってきたさし芽のほとんどは育っていないことも教わった。「枯れるからいい。枯れるからこそ生きていたことが分かる」といったお話や体験から、命を繋いでいくとはどういうことかを学ぶことができた。
〇新堀小学校の 40 周年をお祝いしよう（環境委員会）
環境委員会では、新堀小学校の 40 周年をお祝いするため、花植え活動に取り組んだ。新堀小学校の児童だけでなく、保護者、地域の方、お祝いに来るお客様にも喜んでもらえるよう、色合いや数など考えながら、たくさんの花を協力して植えた。休み時間にはたくさんの児童が花の種類に興味をもって見たり、自主的に水をあげる児童がいたりするなどたくさんの児童が植物に親しむことができた。
〇秋探し（１年）
学校の近くにある公園で、秋を探す活動を行った。エコセンターからの講師にも同行してもらい、秋を探すことができた。様々な形のドングリがあることを発見したり、葉っぱの色の違いを楽しんだりしながら、身近にある自然に親しむことができた。分からないことがあると講師の先生にすぐに聞くことができたので、意欲的に秋を探すことができた。

感想･課題等

〇さつきのさし芽教室は、今年で 40 回目となった。40 周年で新堀小学校の歴史を調べる中で、植物の成長、命の重み、40 年続いているこの学習の伝統について学ぶことができた。
〇環境委員会では、40 周年をお祝いする気持ちとお客様を迎える気持ちを、花を植えることで表現した。限られた時間だったので、子供たちに花を植える以外に考える時間を与えられなかったことは課題であるが、たくさんの方に喜んでもらうことができた。

活動写真

〇さつきのさし芽体験

さつきのさし芽を体験しました。命を繋いでいくことの難しさや素晴らしさを感じることができました。

〇新堀小学校の４０周年をお祝いしよう

新堀小学校の 40 周年をお祝いするために、花を植えました。いろんな色の花をどのようにして植えたらきれいになるか考えながら植えました。

いつも遊んでいる公園で、たくさんの秋を探しました。いろんな形のドングリや色の変わった葉っぱなど秋がいっぱいありました。

〇秋探し

学校名	篠崎小学校	対象学年と人数	全学年：586 名
活動名	篠小の「自然と環境を学ぶ活動」		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：篠小学校応援団「農園ボランティア」 （役割分担）農園での栽培活動の補助		

	○			○	○			

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

○学校農園等での栽培や飼育活動、日々の学習を通して、身近な自然と触れ合い、自然環境を大切にする心情や態度を育てる
○児童会活動を通して、身近なところから社会的な課題を解決する意識を高める
○校外で行われているコンクールやイベントなどへの参加を通して、環境保護活動へ興味・関心を高める

成果

○学校農園で、低学年はサツマイモ、中学年は小松菜・キャベツ、高学年はヘチマ・ジャガイモを栽培した。また、栽培委員会の活動では、トマト・キュウリ・スイカ・イチゴなどを栽培した。高学年は当番制で、低学年のためにサツマイモ畑の草取りを手伝った。一方、小校庭では、鉢やプランターを使って、アサガオやミニトマト、イネ、ホウセンカなどの栽培を行った。栽培したキャベツからはたくさんのモンシロチョウが生まれ、理科の学習に生かすことができた。児童は、栽培活動を通じて、植物の成長やそれらに集まる昆虫の生態等に関心をもち、愛着をもって観察をしたり、育てたりすることができた。
○６年生が、外国語学習の一環として、ＳＤＧｓについて調べたことを英語で発表するという活動を行った。学習を通して、絶滅危惧種や地球温暖化など、生態系の保護に対する意識を高めることができた。
○環境委員会がごみの分別への意識付けをするためのポスター製作や、ＳＤＧｓと関係づけて環境保全について呼びかける集会を行った。また、篠小学園祭では、代表委員がごみの削減・分別・リサイクルへの呼びかけを行ったことで、全校児童の意識を高められ、ごみの量を大幅に減らすことができた。
○（一社）サステナブル経営推進機構、日本経済新聞社主催の「エコプロ 2021」に５、６年生が校外学習として参加し、持続可能な社会の実現に向けて行われている様々な取り組みについて学習した。ワークシートの記述等から、児童の環境保護への意識の高まりや行動に移そうという意欲が感じられた。
○江戸川区環境をよくする東部地区協議会が主催する「環境をよくする絵画コンクール」に作品を応募した。取り組みを通して、環境保護について興味・関心をもつことができた。

感想･課題等

○学習や特別活動などを通して、児童がＳＤＧｓについて知り、興味・関心をもつ機会を多く設けることができた。特に、本校の特色でもある広い農園を生かした活動は、児童の自然愛護の精神を育む良い機会となるため、来年度も引き続き取り組む価値があると改めて感じた。また、ＳＤＧｓをはじめ身近な課題に取り組む活動は、児童が自分事として捉えられるよう、計画性をもって行っていきたい。
○今年度は、コロナ禍の影響で活動停止していた学校応援団による農園ボランティアの活動を再開することができた。三密を避けるなど、感染症対策を徹底しながらの限定的な活動ではあったが、農園での活動を円滑に行うための大きな助けとなった。来年度以降も感染症対策と地域との交流の活性化を両立させていくことが課題である。
○校舎改築に伴って小校庭がなくなるなど、来年度以降、本校の自然と関わる活動の場が限定されることが懸念される。恵まれない環境の中で、いかに豊かな体験活動を保障していくのか検討していくことが必要である。近接する江戸川や区立公園など、近隣の環境や施設の活用も考えていきたい。

活動写真

【学校農園での活動】

菜の花の観察

チューリップの観察

サツマイモ掘り

【小校庭での活動】

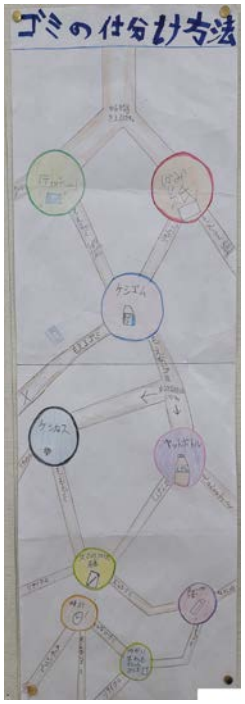
花の栽培

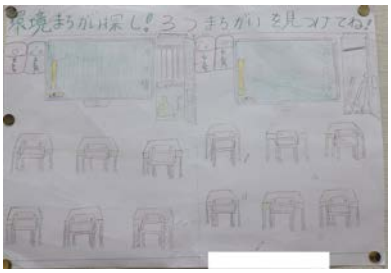
虫捕り

【外国語の学習】

ＳＤＧｓに関する発表

【委員会活動】





環境委員会が作成したポスター

【校外での活動】

学校周辺のごみ拾い

エコプロ 2021 への参加

学校名	篠崎第四小学校	対象学年と人数	全校生徒
活動名	「SDGｓについて調べ、考え、発表しよう」		
指導者	学内指導者：全教員 学外支援者：目白大学人間学部 自動教育学科　石田好広　教授		

1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 ○	6 ○	7 ○	8 ○	9 ○
10 ○	11 ○	12 ○	13 ○	14 ○	15 ○	16 ○	17 ○	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

○SDGｓの概要について知るとともに、森林減少や地球温暖化、絶滅危惧種など、現代の問題について自分たちでできることを考え、校内に発信する

○米作りや園芸活動など、自然体験を通して環境問題について関心を高める

成果

○５年生は校内の田んぼで米作り体験を行った。社会科で学習したことを実体験することで植物を育てることの苦労や大切さを学ぶことができた。

○６年生は現代の諸問題についてグループで探究活動に取り組んだ。調べたことをもとにプレゼンテーションや紙芝居を作成し、校内に広めていく。

○園芸委員会は校内の自然環境を豊かにするため、綿やヒマワリの栽培に取り組んだ。活動の内容は子供たちが原稿を書き、ＨＰに掲載した。

○SDGｓ掲示板を職員室前に設置した。各学年、各教科で学習内容が、SDＧｓのどの番号に関連するか考え、関係単元を掲示した。

感想･課題等

○５年生や園芸委員会の活動のように自然への実体験を通して、自然を愛護する心情を育んだり、環境問題への関心を高めたりすることができた。この取り組みを継続し、いつでも子供たちが豊かな自然環境に触れられるようにしたい。

○６年生の授業やSDGs掲示板を通して、持続可能な社会作りのためにどんなことができるのかについて学ぶ機会となった。来年度からは一層活動を充実し、系統的、教科横断的に SDGｓの内容も指導していきたい。

活動写真

５年生 米作り体験

篠四小産の米を作りました。

田植え、水の管理、脱穀などの自然体験を通して、植物を育てるための工夫や努力を感じました。

園芸委員会の栽培

植物に水やりをしたり草むしりに取り組んだりしました。
活動の様子は自分たちで原稿を作り、HP にアップしました。

６年生『SDGsについて考えよう』

絶滅危惧種や水質汚染などの様々な問題について、自分たちにできることを考えました。

考えたことはプレゼンテーションや紙芝居で発表します。

SDGｓ掲示板

各学年の学習内容が SDGｓとどう関わるかについて掲示しました。
子供たちは、よく足を止めて掲示に注目しています。

学校名	西小岩小学校	対象学年と人数	４年生：８９名
活動名	あなたはどうやってごみを減らしますか？		
指導者	学内指導者：黒田はるか、平野真琴、小泉明子 学外支援者：公益財団法人日本環境協会　こども環境相談室		

1	2	3	4 ○	5	6	7	8	9
10	11	12 ○	13 ○	14	15	16	17	

※該当するＳＤＧｓの項目に「○」を記入

目標

実物のごみを分別したり、３R について話し合ったりすることで、リサイクルについての興味・関心を高め、資源を大切にしようとする意識や実践力の向上を図る

成果

○総合的な学習の時間「絶滅危惧種守り隊」の学習では、環境問題に着目し、自分たちにできること（身近なこと）は3R であると考える児童が多かった。

○日常のごみ捨ての分別の意識が変わり、しっかりと分けたり、積極的にリサイクルしたりしようとするようになった。また、給食の残菜も減った。

感想･課題等

【感想】

○今まですぐに捨てていたものも、リサイクルすると新たなものに生まれ変わるということを知った。

○ごみの埋め立て地がもうすぐいっぱいになってしまうことを知り、できるだけごみを捨てないようにしたり、ものを大切にしたりしようと思った。

【課題】

○子供の意識は変わったが、一日の多くは家庭で過ごしていることもあり、ごみの多くは家庭で排出されている。保護者にも参加してもらい、ごみ問題について理解してもらうことで、家庭でも継続して取り組んでもらう必要があると考える。

活動写真

【環境教育プログラム・出前授業の様子】

１ｋｇのごみって、
どれくらいなんだろう？

ごみの分別をしてみよう！
減らせるものはあるかな？

【へちまでたわしを作ってみよう！】

へちまをたわしに
へ～んしん！！！

こんなに
種がとれたよ～！

学校名	南小岩第二小学校	対象学年と人数	１～６年生：３７８名
活動名	観察池を活用しよう		
指導者	学内指導者：各担任、副校長 学外支援者：学校応援団（メダカの提供等）		

1	2 ○	3	4 ○	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14 ○	15	16	17	

※該当するＳＤＧｓの項目に「○」を記入

目標

○観察池に関心を持ち、生き物や米の観察をすすんで行う

○調べたいと思ったことを、様々な方法で調べていくことで、自分でできることは何かを考えていこうとする

成果

○池の水の変化（夏は藻が増える、冬は氷が張る）、土の部分の変化（雑草の量、霜柱等）に気付き、季節と気温の関わりを観察することができた。（SDGs4）

○鯉やメダカの生育への関心が高まり、生き物を大切に育てようとする心情が高まった。（SDGｓ１４）

○米を育てることで、食物を作る難しさを実感することができた。（SDGｓ２）

○池に生息する微生物を顕微鏡で調べ、iPad で生物名や生態、注意すること等を調べることで、観察池には多くの生き物の世界が広がっていることを感じることができた。（SDGｓ４）

感想･課題等

○１、２年生：池の鯉やメダカに興味を示し、教員や友達同士で楽しく語り合っていた。

○３年生：藻や水草をつついているメダカに関心をもち、虫眼鏡を使って観察していた。

○４年生：水の温度の変化に関心をもち、藻が増えやすい温度や氷が張っているときの水温を予想して計測していた。

○５年生：米を育てるにあたり、根がはるまでの水の量、米の花の咲き方の意外さ、害虫や稲の病気対策、実り始めてからの雀対策等、食べ物を飼育する難しさを実感していた。無農薬野菜や有機栽培がいかに大変かを調べる児童もあり、毎日、食事ができるありがたさを実感できた児童が多数いた。
教室で飼育しているメダカと観察池のメダカの違いについても学習していた。

○６年生：顕微鏡の使い方を学ぶとともに、自身で図鑑やネットで生物名を探る学習により、身近な場所でも多くの種類の生き物が生息している事実を知り、生態系まで発展させようとする児童もいた。
時折池の生き物をねらいに来るシラサギの生態について調べる児童もいた。

活動写真

５年生の活動の様子を掲載しています。

＜事前の準備＞前年度の片付けを頑張りました。

＜田植え後＞水の調整を児童がよくしていました。

＜花の咲いた稲＞

ウサギの世話にきた飼育当番が見付けました。

＜雀対策で児童が考え作成したかかし＞

雀の頭の良さに脱帽していました。

＜稲刈り＞

なんとか収穫できました。

＜新調した浄水ポンプ＞

藻や水草に興味をもつ児童が多くいました。

学校名	北小岩小学校	対象学年と人数	５年生：７０名
活動名	北小田んぼで環境を考えよう（総合的な学習の時間）		
指導者	学内指導者：小林哲、野田亜紀子、藤崎喜仁、簗場博司 学外支援者：ＪＡ鶴岡江戸川事務所様、ＪＡ鶴岡様		

1	2 ○	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15 ○	16	17	

※該当するＳＤＧｓの項目に「○」を記入

目標

○学校にある田んぼを活用し、米作りの難しさや喜びを実感する体験を通して、米作りに携わる人々の苦労や願いを知る

○自分たちの生活の身近にある米について幅広く知り、米のよさや大切さに気付く

○田んぼと自然環境の関わりに興味をもち、日本や世界が抱える環境問題や、それを解決するための方法を調べ、地球環境に関する理解を深める

成果

○田起こし、田植え、成長の観察、稲刈り、脱穀、籾摺り、精米、そして実際に食べるところまでの一連の米作りの作業を自分たちの力で行うことで、米作りは多くの手間がかかっていることを知り、愛着や責任感をもって最後まで活動に参加することができた。

○ＪＡ鶴岡の農家さんから、米作りの実際の作業や自然環境についての現状を聞くことで、実感を伴いながら自らの課題をもつことができた。

○地球を存続させるための持続可能な社会をつくるために、自分たちにできることについて話し合い、考えを深めることができた。

○冬の学習発表会では、今回の年間の活動を発表テーマとし、全校児童や保護者に自分たちが学んできたことやできることを大勢の人に伝え、広めることができた。

感想･課題等

○田んぼで稲を育てるという大掛かりな学習を、グリーンプラン推進校として活動できたことで、自然と人との関わりを深める学習が充分した環境の中で行うことができた。

○令和元年度から米作りを毎年行ってきたため、田んぼの１年間の流れが校内で共有されており、年間計画や見通しをもちやすかった。

○グリーンプランの活動費があったため、必要な道具類やよい土をつくるための肥料等を十分に揃えられたが、校内の予算だけでは不十分な面もある。

○これまではゲストティーチャーとして農家の方をお招きしていたが、コロナ禍のためオンラインでの授業になり、直接お会いして学ぶことのできない難しさを感じた。

活動写真

春

昨年の５年生が、レンゲソウの種をまいてくれました。レンゲソウには、土を肥やす効果があり、田起こしの際に混ぜ込みます。

田起こし

子供たち全員が裸足で田んぼに入り、自分の手で田植えを行いました。ぬめぬめした土に足をとられながらも、楽しそうに活動していました。

田植え

秋

稲穂が黄金色に輝く季節になり、稲刈りのときを迎えました。立派に育った稲は、他学年の子供たちも興味深そうに観察していました。

稲刈り

利き手で鎌を持ち、反対の手を逆さにして稲を掴んで刈り取ります。初めて持つ鎌に緊張している様子でしたが、真剣な眼差しで稲に向かい、しっかりと刈り取ることができました。

はさ掛け

刈り取った稲は鉄棒に掛けて乾燥させました。乾いた稲は脱穀、籾摺り、精米を行い、みんなで炊いて食べました！

来年に向けて、レンゲソウの種を蒔きました。持続可能な稲作を実践しています。

学校名	松江第二中学校	対象学年と人数	全校生徒
活動名	エコキャップ運動 道路クリーンアッププロジェクト		
指導者	学内指導者：恒藤峻、森涼太郎		

	○	○		○	○			

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

＜エコキャップ運動＞
○ペットボトルキャップを回収して、プラスチックごみを減らし、再利用する
＜道路クリーンアッププロジェクト＞
○落ち葉を掃いて、街を綺麗にし、住みやすい環境を整える

成果

＜エコキャップ運動＞
○生徒会の活動で一週間ペットボトルキャップを回収し3Rに貢献できるようにした。
○活動を通して、合計で84.53ｋｇを回収し、回収業者に引き取ってもらうことができた。
＜道路クリーンアッププロジェクト＞
○落ち葉が溜まっていたが、この活動を実施したことにより道路を綺麗にすることができた。
○生徒一人一人のボランティアへの意識が高まった。

感想･課題等

＜エコキャップ運動＞
○クラス対抗で行うことにより、クラス内の絆やリサイクル意識が高まった。
○学校内でプラスチックリサイクルの活動を行うことで、普段キャップをそのまま捨ててしまう生徒たちも活動に貢献し、意識向上にも繋がった。
○自分たちの身近にあるペットボトルのキャップを回収することで、個人でできるプラスチックリサイクルとは何かを考えるきっかけとなった。
○キャップの総量を測る際に、専用の袋に入れる前にビニール袋を使い、手間がかかったので、なるべくビニール袋を使わないように、短時間で計量できるよう模索したい。
○回収する箱が小さく、キャップが溢れてしまう箱もあったため、来年度は、箱の大きさを考えたい。

＜道路クリーンアッププロジェクト＞
〇落ち葉を掃くことが環境をより良くすることに繋がるということがわかった。
〇３学年が同時に活動することで、他の学年との交流を深めることができた。
〇道路掃除の大変さを知ることができ、日頃掃除してくださっている方々への感謝の気持ちをもつことができた。
〇地域の方々のお手伝いをすることができた。
〇落ち葉を入れる袋がビニールであり、問題になっているので、出来るだけ一つのごみ袋に集めるよう、心がけたい。

活動写真

＜エコキャップ運動＞

↑エコキャップ運動での声かけの様子

↑集まったペットボトルキャップの一部

＜道路クリーンアップ運動＞

↑大きなちり取りで集めている様子

↑たくさんのイチョウの葉を集めました

学校名	松江第五中学校	対象学年と人数	全学年有志：４３名
活動名	ウエルカムガーデン植栽、球根植栽活動		
指導者	学内指導者：田村秀樹、冨永真由		

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15 ○	16 ○	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

来校する生徒や保護者、地域のみなさんをお花で迎え気持ちよく学校に来てもらう

成果

生徒会の呼びかけに毎回２０名を超えるボランティアが集まり、花の種類や色合い等を考え植栽活動を行った。
１、２年の学級委員会に呼びかけ、１月に球根の植栽を行う予定。

感想･課題等

年に２回の植栽活動を行っているが、生徒会のメンバーが呼びかけ毎回ボランティアが集まってくれます。花の種類も８種類くらい購入してもらい、色合いや背の高さを考え、どのように植えるときれいに見えるか相談しながら植えています。みんなで放課後集りワイワイやっています。学年も違いますが楽しく活動できています。

令和４年１月６日（木）の活動予定で、春の卒業式や入学式に咲くようチューリップやクロッカス、スノードロップス等の球根を正門近くの花壇に植える計画である。

活動写真

ウエルカムガーデン植栽の様子

種類を選んでバランスを考えました

学校名	小岩第三中学校	対象学年と人数	生物環境部：46名
活動名	植物の栽培を通してSDGｓについて考える		
指導者	学内指導者：武田信樹（計画・立案、生徒指導） 学外支援者：石川きよ子（畑づくり、菊づくりの指導）		

1	2 ○	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12 ○	13	14	15	16	17	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

1　ゴーヤのグリーンカーテン栽培を通して、環境に対する意識を高める
2　屋上農園を活用して、野菜や植物を栽培し収穫の喜びを味わうとともに食品ロスについて考える
3　菊の栽培を通して、栽培の苦労と喜びを味わいながら、自然を慈しむ心を育てる

成果

1　ゴーヤのグリーンカーテン栽培では、種から育てることにより植物を栽培することの大変さと喜びを体験できた。またグリーンカーテンが学校生活に及ぼす影響について知ることができた。
2　屋上緑化の一環としての野菜作りでは、生産者の苦労と喜びを実際に体験することができた。また、食品ロスの現状について調べ、その成果を学芸発表会で発表し啓発活動を行った。
3　菊の三本仕立てに挑戦し、1 年をとおして土作りから鉢替え、水やり、三本の整姿などを通して、丹精込めて栽培することの大切さを学んだ。

感想･課題等

（生徒・保護者の感想から）

1　ゴーヤのグリーンカーテン栽培のアンケート結果（1 年生全員に対して）
◇とてもよかった　（33.7%）　◇まあまあよかった（39.9%）　◇普通(22.7%)
◇あまりよくなかった（3.0%）　◇よくなかった　（0.6%）
○よい感想の意見として（クラスからゴーヤの成長がみられて楽しかったから、グリーンカーテンは環境にいいし緑がきれいだったから、緑があると心が明るくなる気がしたから、教室の気温を下げることに役立っていると思ったから）などの感想が挙げられました。
○よくない感想の意見としては（虫がついているから、ゴーヤが嫌いだから）などの感想が挙げられました。
2　学芸発表会のＳＤＧｓの取り組みに関する感想について（保護者アンケートより）
○食品ロスの現状についてしっかりと調べられている。また、身近な事として給食の食品ロスについて残菜調査を行い、具体的な問題として捉え生徒に訴えていた。
3　菊の栽培について（保護者アンケートより）
○地域の小学校でも取り組んでおり、そのつながりを感じた。大変な作業だと聞いているが、花の美しさと同時に、育てる大変さを生徒の皆さんも感じたことだろうと思っている。

活動写真

1　ゴーヤのグリーンカーテン

ゴーヤの苗の鉢植え

グリーンカーテンへの水やり

グリーンカーテン 50 鉢の全景

2　屋上の野菜づくり

野菜のツルを支柱に固定する作業

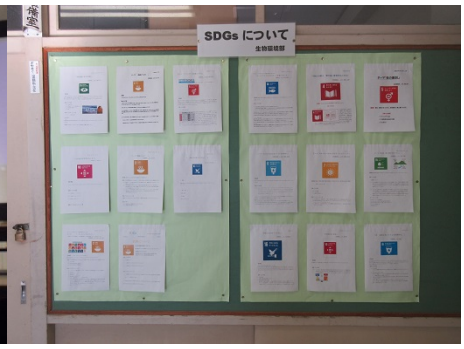
屋上の畑の風景

収穫した野菜

3　学芸発表会（食品ロスの現状：ＳＤＧｓについて考える）での寸劇とプレゼン

学芸発表会準備

食品ロスの寸劇



ＳＤＧｓの調べ学習

4　菊の３本仕立て

菊の枝曲げ

菊の整姿

菊の展示

学校名	小岩第五中学校	対象学年と人数	全学年
活動名	持続的環境へと変わる岩五について考える		
指導者	学内指導者：教職員全員		

1	2	3 ○	4 ○	5	6	7	8	9
10	11 ○	12	13	14	15 ○	16 ○	17 ○	

※該当するSDGｓの項目に「○」を記入

目標

○兼五園のさらなる整備をする中で、校内の学習環境を整備し、自然や環境、生命について考え、現在と未来の学校環境に思いを描き、SDGｓの意識を高める

○生徒会活動やボランティア活動を通じ、環境を守り、育てることのできるリーダーを育成する

成果

○兼五園の整備が進むとともに、全校生徒が自然に触れ合い、環境を大切にし、育てる心が育まれた。

○生徒会本部役員を中心に SDGｓに真剣に向き合い、主体的に全校生徒へ日々の学校生活の改善を呼びかけるリーダーとしての資質が形成された。

感想・課題等

○今年度の兼五園のスタートは、鷺の登場でした。昨年度、グリーンプランで学校の敷地に自然あふれる環境を生徒とともに整備し、現在も拡張している兼五園。その一部である池の鯉や金魚を狙い、空から見下ろしていました。

○日ごろから、池の管理を担当している主事とボランティア部員が気づき、みんなで池を守るため、一時的にテグスを張り、事なきを得ました。その時、生徒の「五中の兼五園も自然の仲間入りをしたんですね」という言葉を聞き、学校に欠かせない自然環境であるとともに、SDGs の推進リーダーである江戸川区の自然の一つとなったことを実感しました。

○今年度は、校庭の一部に陶芸の庭を開園し、古墳型の土台に、生徒の陶芸作品を飾っています。今までは、作品展や学級での作品鑑賞が多かったですが、常に自然とともに作品を飾ることができ、自然とともに生きることを日々感じながら学習を進めることができています。

○今年度、「ヤマアジサイ」や「ヤマボウシ」などを植え、さらに整備を進めた兼五園では、理科の学習において、様々な草花の中から興味のある草花を見つけ、主体的に学習する姿が見られました。保健体育科の授業では、走り幅跳びの学習で少し体を休める中で兼五園を眺め、アジサイの不調に気づき、教職員に教えてくれるような生徒が増えました。

○今年度は、兼五園を生徒とともに育ててく中で、学校生活での日々の学習活動に環境教育が根づき、生徒会本部役員を中心とした生徒会での SDGｓの取り組みを推進することができました。次年度以降も、本校に通う生徒や保護者が自然あふれる学校であると実感できる学校づくりを生徒とともに進めてまいります。

活動写真

発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091　東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階
TEL: 03-5659-1651　　FAX: 03-5659-1677
URL:　http://www.edogawa-ecocenter.jp/